



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月10日

上場会社名 ヤマト インターナショナル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8127 URL <https://www.yamatointr.co.jp/>
 代表者 （役職名）取締役社長 （氏名）盤若 智基
 問合せ先責任者 （役職名）常務執行役員 I R経営企画室長 （氏名）保田 大輔 TEL 03-5493-5629
 半期報告書提出予定日 2026年4月10日 配当支払開始予定日 2026年4月27日
 決算補足説明資料作成の有無： 無
 決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	10,481	△0.6	△48	—	32	△68.1	77	3.8
2025年8月期中間期	10,539	△5.7	38	△79.9	103	△58.1	75	△60.3

（注）包括利益 2026年8月期中間期 881百万円（916.6%） 2025年8月期中間期 86百万円（△86.2%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	3.81	—
2025年8月期中間期	3.65	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年8月期中間期	25,606	17,923	70.0	880.33
2025年8月期	23,301	17,314	74.3	845.76

（参考）自己資本 2026年8月期中間期 17,923百万円 2025年8月期 17,314百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	6.00	—	10.00	16.00
2026年8月期	—	6.00	—	—	—
2026年8月期（予想）	—	—	—	8.00	14.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,500	5.4	180	—	270	—	200	39.7	9.77

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更： 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
 - ② ①以外の会計方針の変更： 無
 - ③ 会計上の見積りの変更： 無
 - ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期中間期	21,302,936株	2025年8月期	21,302,936株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	943,285株	2025年8月期	830,944株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年8月期中間期	20,455,847株	2025年8月期中間期	20,544,778株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士または監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、資源価格の高騰や円安を背景とする物価高、金利・賃金の上昇等にみられるとおり、インフレ社会が到来し時代の転換期を迎えております。更には、欧州・中東における地政学リスクの高まりや米国を中心とする経済政策の動向等、国際情勢や金融市場はますます複雑化し、先行き不透明な状況が続いております。

当アパレル・ファッション業界におきましては、所得環境の改善やインバウンド需要の拡大に支えられ、個人消費の持ち直しの動きが一部に見られました。その一方で、米やガソリンをはじめとする物価上昇によるお客様の生活防衛意識の高まりや常態化する猛暑・残暑等、気候変動による衣料品全般に対する購買動機とその機会の変容が懸念されます。

このような経営環境の中、当社グループは「ものを創り 人を創り お客様と共に心豊かな毎日を創る」という不変のミッションのもと、人々のライフスタイルや価値観が様変わりする中で、いつの時代でも どのような環境下でも、お客様の不満や問題を解決し 求められるものを提供し 最初に想起される真のブランド「シン・ブランド創り」を目指しております。

これらを背景に始動した中期ビジョン「Yamato 2026」では10年後を視野に、既顧客の活性化を大前提としながらも、次の世代の潜在顧客獲得に より比重を置いた戦略を実践してまいります。そして、10年後のあるべき姿として、次の世代のお客様が当社のブランドを認知認識し、私たち創り手の意図を理解し、詳細な特徴を語り他者へ共有できる、更にはお客様同士も共鳴できる状態。お客様も社員も誇れる真のブランドになっている姿を目指してまいります。

基幹事業である「クロコダイル」は、「“大人のTPO”をスマートに演出するブランド」をコンセプトに、改めて原点である顧客起点に立ち返り、既顧客の満足度向上と活性化に繋がる商品の強みや付加価値を戦略的に構築してまいります。

潜在顧客の獲得に向けましては、「クロコダイル」グループにおける先進的な役割を担う2つの「ストラテジックライン」である「スイッチモーション クロコダイル」と「クロコダイル コード」が順調に成長しており、引き続き売場面積の拡張を目指し、事業規模の拡大を図り、「粗利額と率」の伸長に努めてまいります。

また今期は、当社を取り巻く環境の急激な変化に対応するべく、戦略的な価格とそれを実現するための供給体制の構築を推し進めております。時代の変化に合わせブランド・商品・サービスをアップデートし提供することで、インフレ禍であってもお客様がお求めやすく 選びやすい商品構成を整えてまいります。

更に商品、店舗、コミュニケーション等すべてにおいて一貫性を保ち提供することで、お客様のブランドに対する認知認識を深め顧客を獲得し、事業の持続的な成長を目指してまいります。

また、自ら商標権を保有しライセンス事業を展開する米国発アウトドアファッションブランド「Penfield (ペンフィールド)」と、ハワイ発カジュアルサーフブランド「Lightning Bolt (ライトニングボルト)」は、ブランド認知度と価値向上に注力し、更なる事業拡大を目指してまいります。

一方、当社グループの物流業務を請け負う子会社ヤマト ファッションサービス株式会社では、EC事業の成長に伴い小口配送の件数が年々増加しております。近年導入を進めてきた自動ソーター、自動製封函機、及びカメラ認証システムも活用し、物流業務の変化にも対応しております。今後も、積極的な投資による業務の自動化、省人化を推進することで、更なる生産性向上を図ってまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間における経営成績は、売上高が104億8千1百万円(前年同期比0.6%減)と減収になりました。利益面では、売上総利益率は54.0%(前年同期比1.6ポイント減)となり、販売費及び一般管理費については57億1千2百万円(前年同期比1.9%減)、営業損失は4千8百万円(前年同期は営業利益3千8百万円)、経常利益は3千2百万円(前年同期比68.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は7千7百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

セグメントごとの売上高では、繊維製品製造販売業103億4千3百万円(前年同期比0.5%減)、不動産賃貸事業1億3千8百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産の残高は114億5千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億4千9百万円増加いたしました。主な要因は、商品及び製品が4億5百万円増加し、現金及び預金と有価証券を合わせた手元流動性資金が63億8千万円から69億4千5百万円と5億6千5百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定資産の残高は141億4千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億5千6百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産が2千7百万円増加し、投資有価証券が11億1千9百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は256億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億5百万円増加いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債の残高は58億9千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億3千4百万円増加いたしました。主な要因は、電子記録債務が14億円増加し、支払手形及び買掛金が2千7百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定負債の残高は17億8千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億6千2百万円増加いたしました。主な要因は、繰延税金負債が3億7千4百万円増加し、長期借入金が5千7百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は76億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億9千7百万円増加いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産の残高は179億2千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億8百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金が1億2千6百万円減少し、その他有価証券評価差額金が7億8千5百万円増加したこと等によるものであります。

これらの結果、自己資本比率は70.0% (前連結会計年度末は74.3%) となりました。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間については、近年の猛暑・残暑に対応するべく臨んだ夏物において、結果的には過度な対応となったことで次シーズンである秋物販売へも影響し当初予想を下回る見込みとなりました。なお、2026年3月27日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております。

通期の連結業績予想については、予測不能な気象状況並びに地政学リスクに伴う円安や物価高騰が個人消費に与える影響等、先行き不透明な状況は続くと思われませんが、順調に推移する春物の初動、並びに中期ビジョン「Yamato 2026」で掲げた各課題に注力することで、2025年10月10日公表の通期予想数値を据え置いた計画としております。

なお、当期の配当金については、2025年10月10日の「2025年8月期 決算短信」で公表いたしました配当予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,880,363	5,145,812
受取手形、売掛金及び契約資産	1,187,424	1,373,268
有価証券	1,499,771	1,800,000
商品及び製品	2,372,972	2,778,780
仕掛品	97,127	135,743
その他	271,060	224,203
流動資産合計	10,308,720	11,457,809
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,385,178	1,407,058
機械装置及び運搬具(純額)	80,785	90,272
土地	5,179,068	5,179,068
リース資産(純額)	15,007	9,516
その他(純額)	39,334	40,883
有形固定資産合計	6,699,373	6,726,799
無形固定資産	4,891	4,294
投資その他の資産		
投資有価証券	5,902,647	7,022,597
差入保証金	109,523	109,639
退職給付に係る資産	195,461	204,409
繰延税金資産	1,186	2,113
その他	107,000	106,940
貸倒引当金	△27,671	△27,671
投資その他の資産合計	6,288,147	7,418,029
固定資産合計	12,992,413	14,149,123
資産合計	23,301,133	25,606,932

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	625,351	652,357
電子記録債務	2,830,289	4,231,212
1年内返済予定の長期借入金	230,572	197,372
未払法人税等	68,490	69,936
賞与引当金	69,324	66,843
その他	739,110	680,276
流動負債合計	4,563,137	5,897,997
固定負債		
長期借入金	585,745	528,659
資産除去債務	78,885	79,054
繰延税金負債	562,221	936,230
その他	196,702	241,858
固定負債合計	1,423,554	1,785,803
負債合計	5,986,692	7,683,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,917,652	4,917,652
資本剰余金	4,988,692	4,988,692
利益剰余金	6,336,023	6,209,217
自己株式	△394,903	△462,853
株主資本合計	15,847,465	15,652,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,489,377	2,275,232
繰延ヘッジ損益	△964	14,586
退職給付に係る調整累計額	△21,437	△19,396
その他の包括利益累計額合計	1,466,976	2,270,423
純資産合計	17,314,441	17,923,132
負債純資産合計	23,301,133	25,606,932

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	10,539,208	10,481,125
売上原価	4,676,960	4,817,071
売上総利益	5,862,247	5,664,054
販売費及び一般管理費	5,823,357	5,712,418
営業利益又は営業損失 (△)	38,890	△48,364
営業外収益		
受取利息	17,473	27,507
受取配当金	41,917	39,380
為替差益	888	8,877
その他	8,380	10,826
営業外収益合計	68,660	86,591
営業外費用		
支払利息	3,600	4,446
その他	836	852
営業外費用合計	4,436	5,299
経常利益	103,113	32,927
特別利益		
投資有価証券売却益	—	95,043
特別利益合計	—	95,043
特別損失		
固定資産除却損	215	5,798
特別損失合計	215	5,798
税金等調整前中間純利益	102,897	122,172
法人税、住民税及び事業税	26,258	42,469
法人税等調整額	1,550	1,789
法人税等合計	27,809	44,259
中間純利益	75,087	77,913
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益	75,087	77,913

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
中間純利益	75,087	77,913
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,273	785,854
繰延ヘッジ損益	1,983	15,551
退職給付に係る調整額	354	2,041
その他の包括利益合計	11,612	803,447
中間包括利益	86,700	881,360
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	86,700	881,360
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	102,897	122,172
減価償却費	85,711	73,933
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△5,514	△8,948
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,607	△2,481
受取利息及び受取配当金	△59,391	△66,887
支払利息	3,600	4,446
為替差損益 (△は益)	△1,152	207
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△95,043
固定資産除却損	215	5,798
売上債権の増減額 (△は増加)	14,915	△185,844
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△562,504	△444,424
仕入債務の増減額 (△は減少)	600,422	1,427,928
その他の資産の増減額 (△は増加)	27,826	22,498
その他の負債の増減額 (△は減少)	△157,617	△4,397
その他	645	3,047
小計	47,446	852,006
利息及び配当金の受取額	54,734	63,871
利息の支払額	△3,980	△4,559
法人税等の支払額	△34,922	△39,473
営業活動によるキャッシュ・フロー	63,278	871,844
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	—	199,500
有形固定資産の取得による支出	△216,499	△99,437
有形固定資産の除却による支出	△8,203	△9,542
無形固定資産の取得による支出	—	△1,465
投資有価証券の取得による支出	△2,679	△1,908
投資有価証券の売却及び償還による収入	37,106	163,470
差入保証金の差入による支出	△76	△135
差入保証金の回収による収入	8,992	12,057
投資活動によるキャッシュ・フロー	△181,360	262,538
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	200,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△171,686	△140,286
自己株式の取得による支出	△165	△68,230
配当金の支払額	△205,449	△204,582
その他	△7,752	△5,627
財務活動によるキャッシュ・フロー	△185,053	△368,726
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,152	△207
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△301,983	765,449
現金及び現金同等物の期首残高	7,455,520	6,180,363
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,153,536	6,945,812

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,396,325	142,882	10,539,208	—	10,539,208
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,396,325	142,882	10,539,208	—	10,539,208
セグメント利益	302,149	69,125	371,275	△332,385	38,890

(注)1. セグメント利益の調整額△332,385千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維製品製造販売業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,343,038	138,087	10,481,125	—	10,481,125
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,343,038	138,087	10,481,125	—	10,481,125
セグメント利益又は損失(△)	233,353	46,505	279,859	△328,223	△48,364

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△328,223千円は、各報告セグメントに配分していない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。